

◆ 世田谷都税事務所長賞 ◆

「未来へのバトンパス」

世田谷区立八幡中学校 3年 本郷 なの

歴史の教科書を開けば、至る所で「税」という文字を発見する。奈良時代では、「租調庸など税を納めることが課される」。平安時代では、「年貢を毎年納める」。何百ページにもわたる教科書にはたくさんの税が詰まっている。でも、そんなに税金が大事なのかといつも私は思ってしまうのだ。

例えば、昔の農民たちはとても重く、苦しい税に負担を受け、一揆を起こしたり、武力での反抗も多かった。

あなたは「年貢の納め時」という言葉を聞いたことがあるだろうか。滞納していた年貢を清算するときに、悪事をし続けてきた者が罪に服して、これまでの悪事をつぐなうときが来たという由来がある。今では、見切りをつけたり、覚悟を決めるころ合いという意味で使われることが多い。

とにかく昔の人たちは、税金に対してあまり良いイメージをもっていないことが伝わってくる。しかし、約千三百年以上前から今日までずっと税があるというのには理由があるはずだ。

私は昨年、激しい運動によって、腰椎分離症と診断を受けた。病院でレントゲン撮影やMRIなどたくさんの検査を受けた。また、自分に合った形のコルセットを作ってもらったり、約半年の間、週に二、三回リハビリに通ったりもしていた。当たり前のように病院で治療を受けていた当時は気づかなかったが、国や税金に支えられて、私は競技に復帰できたと感じた。

他にも、教科書を閉じたとき裏表紙から目に飛び込んできた「教科書無償化」という文字。私たち学生は自由に勉強ができ、学ぶことができるのだ。最近では、「私立高等学校等授業料軽減助成金」が出ている。そう、これは高校生が安定して勉強に打ち込める環境を作るためである。そして、道路は綺麗に整備され、安全な道を通っている。何気ない毎日、社会に目を向け、町を歩いてみれば、充実した生活は税金によって支えられ、私たちは恩恵を受けていると気付かされる。

最近のメディアでは「増税」や「国民の負担までも増える」などといったマイナスのタイトルから始まるものが多い。でも、税のおかげで成り立っている今の生活だからこそ、マイナスの面を返してみれば、税のありがたさというプラスの面も見えてくるはずだ。

これからの未来、私たちが納税していくことになる。何千年もの歴史の中で、昔から納め続けられてきた税金。そのバトンパスまでもうすぐ。その役割は税を納め、次の世代にバトンをつなぐ使命がある。

納税は「未来のための貯金」ということだと私は思う。いつか歴史の1ページに、税金によって作られた、明るい日本の未来が刻まれることを願って。